

信長らを感じる 公園穴場スポット

斎藤道三、織田信長ら歴代の岐阜城主が館を構えた岐阜公園。明治以来の公園整備で多くを失いましたが、よく観察すると戦国時代の空気を感じられるスポットがあります。公園を散策しつつ、見つけてみませんか。



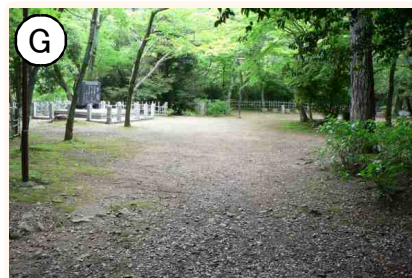
A そうがまえ どんい 総構の土塁

城下町を囲う土塁や堀を総構といいます。岐阜城下町も土塁や堀で囲われていました。今の金華山トンネル脇から金華橋に至る堤防は、戦国時代の土塁を利用して造られています。



巨石

池周辺のこのあたりには、巨大な石があらこちらで見ることができます。恐らく信長が造った巨石列を壊し、転用していると考えられます。



御殿跡と茶室？跡

一番高い平坦地(G)に信長の御殿があったとされています。御殿の3階から渡り廊下で茶室に至ることから、さらに6m程上の小さな平坦地に茶室があった可能性があります。



B

戦国時代の登山道？

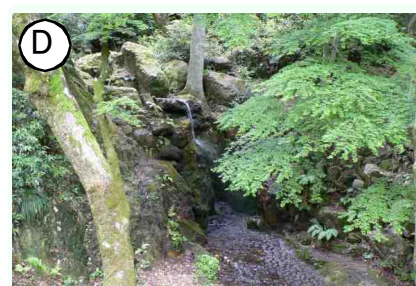
平成9年度の発掘調査で戦国時代の通路が見つかりました。現在の登山道と一直線に繋がりが、登山道は戦国時代と同じルートだったかも知れません。写真手前の石垣は現在見ることはできません。



C

復元井戸

平成11年度の発掘調査で見つかった石積みの井戸を一度解体し、一部を同じ場所に積み直しました。

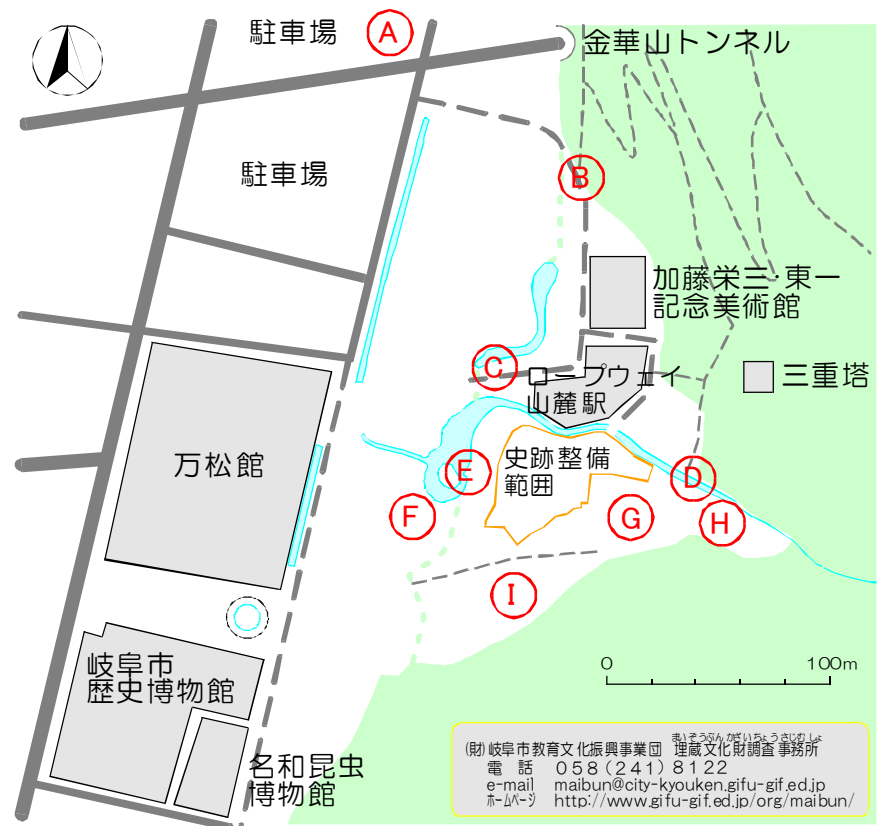


D



滝と巨石列

瀬谷に造られた滝で、信長時代のものという説もあります。その脇には発掘で見つかった巨石列に似たものが見られます。



平坦地 (曲輪)

木がうっそうと茂る山の中に、人工的な細長い平坦地(曲輪)が残っています。

【巨石列とは？】 発掘調査で出土した、戦国時代の大きな板状の石を立て並べたもの。全国的にもあまり例はなく、公園内に復元整備されている。石は金華山で採れるチャート。



史跡整備範囲

昭和58~62年度の発掘調査で出土した、信長居館の入口部分を復元整備しています。1560年代としては珍しい構造をしており、信長の独創性がうかがわれます。